

日本の家に住もう。シリーズ VI

【高岡のまちや】

かつての日本の家に確かにあったもの。本物の木と紙と土で造った家、時を経てなお趣を端す家、深い軒が陰影を描く家、応接の場になったり子供の遊び場になったりさまざまな機能を持った土間、家族の笑顔があふれる居間、開放したり仕切ったりしながら日々の暮らしに対応できる間取り、どこにいても家族の気配が感じられる空間。こうした家で子供たちは、家族の中で自分の位置や立場、思いやりや優しさ、絆や情緒を、五感で学びながら成長しました。

今一度とり戻したいと思います。日本の風土・文化・歴史に根ざした本当の意味での日本の住まいの原形。職人たちが精魂傾けた手仕事で光る家を造りたい。そんな思いを込めて完成させたのが「高岡のまちや」です。



# 子どもが 健康に育つ家



●子育てと家づくりは、そんなに  
関係あるのですか？

いつもイライラしている子供、家庭内暴力や凶悪な犯罪など、目を覆いたくなるような子供たちの事件が頻発しています。どうしてなのでしょう。子供を育てた家庭環境が少なからず影響していることは確かです。

家を建てる時には、子供の数だけ居室を造るのが普通です。空調設備が整い、テレビや電話、インターネットまで揃った居心地いい空間。そこに子供がこもってしまうのは当然かもしれません。しかし、それでは家族とのコミュニケーションや、相手への気遣い、思いやり、ときには自分を抑えて我慢することなど、子供たちが家庭で学ぶべき「人間として大

切なと」が置かれてしまいます。そして、もっとも悪い間取りは、子供が、切親と顔を合わせずに自分の部屋へ入ってしまう家だとも言われています。

引きこもりにも引きこもりよりのない子供部屋、ある意味でそんな部屋がいいと思うのです。子供たちが個室を必要とするのは、思春期などほんの二期期だけではないでしょうか。幼いころは特に、家族との濃密な関わりの中で育てるのがいいと思います。

学校教育や社会教育、それ以前に、子供たちは家族に見守られながらさまざまなことを学びながら成長していくものです。家族が集い、家庭の中で子供たちが健康やかに育っていく。そんな家をミヤワキホームは建てたいと考えています。

衰え、免疫力や抵抗力も低下し、昔にはなかったアレルギーや病気を発症しています。

春夏秋冬の季節には、自然をたっぷり取り込み、冬にはびたつと閉じて暖かく暮らす、そんな家が理想です。

「高岡のまちや」では、伝統的な在来軸組工法を踏まえながら新しい断熱技術を取り入れて、少ないエネルギーで夏涼しく冬暖かい、体に優しく自然に近い暮らし方を提案しています。

高性能の断熱ウレタンを隙間なく吹き付けることで、家全体を包み込んで暖かさを逃さない技術。夏場には屋根に設けた機械換気口から暖まった空気を逃して涼しさをもたらす工夫。内壁と外壁の中の通気層を空気が循環して、屋内を快適に。さらに、床下換気口を季節ごとに関閉させることで、暖気と冷気を調節します。

●夏涼しく冬暖かい家は、理想なの  
ですが。

夏はクーラー、冬はヒーター、最新の機械力を駆使すれば、家の中には自在に快適環境にコントロールすることが出来ます。でも、それだけのだけでは、人間が際限なく使うエネルギーに、地球環境の未来が懸念されます。

また、快適すぎる住まいで育った子供たちは、自然環境への適応力が

【子供・夏涼冬暖】

人と人のつながりを大切に



**ミヤワキホーム**  
株式会社  
ミヤワキ建設

〒933-0826 高岡市佐野1400番地の1  
TEL 0766-26-2581  
<http://www.miyawakihome.com/>

●常設展示場 会場インフォメーション

**information**

★土・日・祝日/10:00~17:00  
★平日/連絡いただければ開館致します

**0120-26-2582**

※HPでも内観を見ることが可能です

高岡市泉町1008-7